



一般社団法人

日本アカデミック・ディテリング研究会

Newsletter 2026

2

2026
July

第28回日本医薬品情報学会総会・学術大会 シンポジウム11 医薬品情報比較を極めたアカデミック・ディテリング ～個別最適化を目指した処方提案へ～

日時 2026年7月12日（日）9:30～11:30
場所 東京理科大 葛飾キャンパス

オーガナイザー

小茂田 昌代(千葉西総合病院)
座間味 義人(岡山大学病院)

座長

小茂田 昌代(千葉西総合病院)
濱野 裕章(岡山大学)

演者

田中 怜(湘南医療大学)
大沼 真季(株式会社メディパル
ホールディングス)
魚住 春歌(千葉西総合病院)
高浦 知沙(サンロクゴ訪問薬局目黒店)
杉山 奈津子(国際医療福祉大学)



シンポジウムの内容

アカデミック・ディテリングを実践するためには、薬剤師自身が最新のエビデンスを評価・活用し、推奨される薬効群に属する各薬剤の特徴を理解し、患者の薬学的リスクや生活環境を考慮した上で最適な処方提案を行うことが必要である。本会では、各立場の先生から多岐に渡るご活動をご紹介いただいた。

1. 田中先生 NSAIDs関連の論文を調査し、COX選択性により胃腸障害、腎障害、心・血管障害のエビデンスに差があるのかを整理し、ご紹介頂いた。
2. 大沼先生 AD資材開発の経験を基に、基礎と臨床を結び付け可視化した過程をご紹介頂いた。
3. 魚住先生 帯状疱疹治療薬アメナメビルの相互作用について、PSCSの理論を用いてご紹介頂いた。
4. 高浦先生 在宅訪問薬局の立場から、AD資材を活用し生活背景も鑑みて処方提案を実践した事例をご紹介頂いた。
5. 杉山先生 帯状疱疹治療に着目しAD資材を開発した上で「介入型薬剤疫学研究」(通常診療の範囲内で医療の質向上に資する介入)を行った事例についてご紹介頂いた。

シンポジウムを通して（オーガナイザーからの提言）

本シンポジウムでは薬剤師の未来を変える試みとして、アカデミック・ディテリング活動に携わる大学教員、病院薬剤師、薬局薬剤師、AD資材開発の立場から、基礎薬学をどのように活用して、医師に処方提案を実践するかについて、ご紹介いただきました。また、資材開発では様々な患者の背景を軸に、どの薬剤が最適かを導くために基礎薬学を活用する具体例を示していただきました。質問も多く出て時間切れとなるぐらいであり、終わった後も、薬剤師は医師への公正中立な医薬品情報提供者というギアチェンジが必要というところに、非常に感銘を受けたというお声掛けをいただきました。

お申込みはこちらから→

第9回 日本アカデミック・ディテラー養成プログラム (web)

テーマ：2型糖尿病

日 時：7月5日（日）基礎薬学 8月2日（日）論文吟味
9月6日（日）処方提案 10月4日（日）コミュニケーション



本年度研修会のお知らせ

<https://jpacademic-detailing.com/>